原著論文　診療と新薬 2026; 63: 73-81

診療と新薬 Web

アリドネ®パッチに対する患者と家族・介護者の意識調査

福岡勝志[1)]／柳田朋之[2)]／田嶋祥子[3)]／辻本一行[3)]／
弓削吏司[1)]／清水聰一郎[4)]

A Survey on the Perceptions of Allydone® Patches among Patients, Families, and Caregivers

Katsushi FUKUOKA[1)]／ Tomoyuki YANAGIDA[2)]／ Sachiko TAJIMA[3)]／
Kazuyuki TSUJIMOTO[3)]／ Satoshi YUGE[1)]／ Soichiro SHIMIZU[4)]

1）Educational Training & Medical Information Department, Nihon Chouzai Co.,Ltd.
2）Japan Medical Research Institute Co.,Ltd.
3）Medical Affairs Department 1, Kowa Co., Ltd.
4）Department of Geriatric Medicine, Tokyo Medical University

● 要旨

目的：アルツハイマー型認知症治療薬ドネペジルの経皮吸収型製剤（アリドネ®パッチ）は，嚥下困難や服薬忘れへの対応として有用とされるが，患者および介護者双方の使用感や意識については十分に明らかにされていない。本研究は，アリドネ®パッチの使用実態および服薬アドヒアランスへの影響を把握し，患者・介護者双方の視点から評価することを目的とした。
方法：日本調剤株式会社の薬局においてアリドネ®パッチを調剤・交付された患者または家族・介護者を対象に，2025 年 6 ～ 8 月にアンケート調査を実施した。アリドネ®パッチの使用感・利便性，貼付時の注意点，貼付剤と経口剤の比較などを質問した。
結果：103 例（患者 34 例，家族・介護者 69 例）から回答を得た。年齢は 80 歳前後が多かった。アリドネ®パッチの大きさは「ちょうど良い」（63%），貼り心地は「良い」または「まあまあ良い」（88%）と評価された。「貼り薬があるほうが良い」（52%）は「すべて飲み薬が良い」（18%）を上回り，利点として「服薬を忘れることが少ない」（35%），「飲むより貼るほうが簡単」（30%）が挙げられた。一方，欠点は「かぶれる」（32%）が最多であった。患者と家族・介護者では，患者が快適性を，介護者が皮膚症状や管理負担をより重視する傾向がみられた。
考察：貼付剤は服薬アドヒアランス向上に有用であり，特に認知症患者の服薬忘れ防止に寄与すると考えられた。一方で，皮膚症状などの管理負担も認識されており，患者と介護者の間に評価の差が存在した。患者の貼付剤に対する満足度の高さは，家族・介護者のサポートが貢献していることが考えられる。

Key words：アリドネ®パッチ，ドネペジル経皮吸収型製剤，アルツハイマー型認知症治療剤，貼付剤，患者調査

1）日本調剤株式会社 教育情報部　2）株式会社日本医薬総合研究所 マーケティング支援チーム
3）興和株式会社 メディカルアフェアーズ第一部　4）東京医科大学病院 高齢総合医学分野

1. はじめに

アルツハイマー型認知症に対する薬物療法において，ドネペジルは最も広く用いられている治療薬である。従来は錠剤が主な剤形であり，一定の効果が報告されている[1)~3)]。一方，認知症患者では，加齢に伴う嚥下機能の低下や服薬自体を忘れてしまうことによるアドヒアランス不良が問題となる。そのため，服薬管理を担う家族や介護者にとっても，毎日の投薬管理は大きな負担となっており，処方には工夫が求められ，貼付剤や口腔内崩壊錠などの剤形が使用されている。

貼付剤であるアリドネ®パッチは，2023 年 4 月に発売されたドネペジルを新有効成分とした経皮吸収型製剤である。アルツハイマー型認知症（軽度～高度）の適応を有し，血中濃度の上昇が緩やかで 17 日目には定常状態[4)] となるため，軽度～中等度のアルツハイマー型認知症患者には漸増不要の薬剤である。また，アリドネ®パッチの有効性および安全性は，国内治験において経口ドネペジル塩酸塩と非劣性であることが証明されており[5)]，実臨床下でも，原田ら[6)]，石崎ら[7)]，吉元[8)] の報告からその有用性が報告されている。特に原田ら[6)] の報告では，アリドネ®パッチの投与により介護者の服薬管理に伴う負担が軽減されたと報告されている。

貼付剤は服薬状況が一目で確認できるため，介護者の負担軽減に寄与するとされ，嚥下困難例や服薬拒否のある患者においても適応しやすいことが期待されている。実際にケアマネジャーや訪問看護師にとって，認知症の人へ貼付剤は使用しやすい剤形であることが報告されている[9)10)]。しかし一方で，皮膚刺激や貼付部位の管理といった新たな課題もあり，患者およびその家族・介護者の視点からみて，錠剤よりも使いやすいのか十分な検討がなされていない。そこで今回は，アリドネ®パッチ処方患者自身またはその家族・介護者に対して，貼付剤の使用状況や使用感，また飲み薬との違いについて，アンケートを用いて確認することとした。また，服薬アドヒアランス改善に資する知見を得ることで，患者の薬剤管理に寄与することを目的とした。

2. 方　　法

対象は日本調剤株式会社の薬局にてアリドネ®パッチの調剤・交付を受けた患者またはその家族・介護者とした。アリドネ®パッチの月間処方箋枚数が多い上位 13 薬局を対象とし，アンケート調査は 2025 年 6 月から 8 月に実施した。なお，アリドネ®パッチが初めて処方され，使用経験がない場合には本研究から除外した。調査項目は，薬剤師が患者の性別および年齢，使用している薬の数，アリドネ®パッチ処方期間を回答し，患者またはその家族・介護者がアリドネ®パッチの使用感や使い易さ（製剤の大きさ，貼り心地の程度，日常生活の中ではがすことはあるか，貼付時やはがす時に気を付けていること，良い点，悪い点），経皮型吸収製剤全般に関する嗜好・ニーズ（すべて飲み薬での治療と貼付剤のある治療ではどちらが良いか，飲み薬に比べて貼付剤の良いところ，飲み薬に比べて貼付剤の悪いところ）を回答した（**図 1**）。

薬局で取得した諸文書（同意書，記入済みアンケートの原票）は日本医薬総合研究所に FAX され，電子データ化し固定した。その後，諸文書は日本医薬総合研究所に郵送されるが，アンケートや提供データに個人情報は含まれていない。日本医薬総合研究所は，日本調剤に対して当該アンケート調査の実施薬局先と対象患者選定を要請し調整を図った。また，アンケート開始後，回答の集計が終わるまで，筆者および興和㈱の社員はデータに関与していない。なお，本研究は日本調剤倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認日：2025 年 3 月 31 日，承認番号：2025_030）。

3. 結　　果

I　全体の集計結果

アンケート用紙は 103 例から回収できた。回答者は患者が 34 例で家族や介護者が 69 例であった。患者の性別は男性 42 例，女性 59 例であり，2 例が不明であった。患者の平均年齢は 81.1 歳であり，81 ～ 85 歳が最も多く 32 例であった。続いて 76 ～ 80 歳が 30 例，86 ～ 90 歳が 19 例であった（**表 1**）。現在使用中の 1 日の錠数は「なし」が 31 例（30%），「1 ～ 5 錠」が 45 例（44%），「6 錠以上」が 27 例（26%）であり，アリドネ®パッチ以外の貼付剤を処方されている人はほぼいなかった（貼付剤併用例は 1 例のみ）。アリドネ®パッチの投与期間は「1 年以上」が 33 例（32%），「1 年未満」が 62 例

アリドネ®パッチをお使いの患者さまへ
使用感アンケート

この度、アリドネ®パッチ（貼付剤）の使用感，印象、飲み薬との違いについてアンケートで確認することになりました。アンケートの回答は当薬局において適切に管理します。取得した個人情報および研究結果について、集計した情報を個人が特定されない形で加工し、学会・論文などで利用する場合があります。調査への協力は任意であり、協力しなかったことで不利益を被ることはありません。

□ このアンケートについて説明を受け、回答することを承諾します

ご回答者はどちらですか
□患者さまご本人　□ご家族・介護の方

アリドネ®パッチについてお聞きいたします
Q1.アリドネ®パッチの大きさはいかがでしょうか（1つお答えください）
□大きすぎる　□ちょうど良い　□小さすぎる　□気にしていない

Q2.アリドネ®パッチの貼り心地はどうでしょうか（1つお答えください）
□良い　□まあまあ良い　□やや悪い　□悪い

Q3.日常生活の中でアリドネ®パッチをはがしてしまうことはありますか（1つお答えください）
□よくある　□時々ある　□あまりない　□全くない

Q4.貼る時、はがす時に気をつけていることを教えてください（複数選択可）
□やさしく貼る　□ゆっくりはがす　□貼る場所を変える　□保湿する
□その他（　　）

Q5.アリドネ®パッチについて、良い点、悪い点を教えてください
良い点（　　）
悪い点（　　）

飲み薬と貼り薬の比較について
Q6.すべて飲み薬の場合と、現在受けている貼り薬のある治療法とどちらが良いですか（1つお答えください）
□貼り薬がある方が良い　□すべて飲み薬が良い　□どちらでも良い

Q7.飲み薬に比べて貼り薬が良いところはどこですか（複数選択可）
□服薬を忘れることが少ない　□水を飲まなくて良い
□飲むより貼る方が簡単　□何かあったときはがせる
□その他（　　）

Q8.飲み薬に比べて貼り薬が悪いところはどこですか（複数選択可）
□貼るのが難しい　□かぶれる　□気になる（はがしたくなる）
□はがすとき痛い
□その他（　　）

ご協力ありがとうございました。

【薬剤師記入欄】　ID：＿＿＿＿

Q1.性別、年齢
□男　□女　年齢（　　）歳

Q2.現在、使用しているお薬の数
錠数：1日（　　）錠　貼付剤（テープ剤）：1日（　　）枚

Q3.アリドネ®パッチをこれまでどのくらいの期間、貼付されているか
アリドネ®パッチ初回処方日：　年　月　日

Q4.回答する方は、どなたでしょうか
□患者さまご自身　□ご家族・介護の方

図 1　アンケート用紙

表 1　患者の年齢

	人　数	割　合
56 ～ 60 歳	3	3%
61 ～ 65 歳	0	0%
66 ～ 70 歳	2	2%
71 ～ 75 歳	9	9%
76 ～ 80 歳	30	29%
81 ～ 85 歳	32	31%
86 ～ 90 歳	19	18%
91 ～ 95 歳	6	6%
不　　明	2	2%
合　計	103	100%

表 2　アリドネ®パッチの大きさおよび貼り心地

		人　数	割　合
大 き さ	大きすぎる	14	14%
	ちょうど良い	65	63%
	小さすぎる	0	0%
	気にしていない	24	23%
	合　計	103	100%
貼り心地	良　い	35	34%
	まあまあ良い	56	54%
	やや悪い	8	8%
	悪　い	1	1%
	未 回 答	3	3%
	合　計	103	100%

（60%），「不明」が 8 例（8%）であった。

1. アリドネ®パッチについて

アリドネ®パッチの大きさは，「ちょうど良い」が 65 例（63%）と多く，貼り心地は，「まあまあ良い」が 56 例（54%），「良い」が 35 例（34%）であった（**表 2**）。日常生活の中でアリドネ®パッチをはがしてしまうことは，「全くない」との回答が多く 44 例（43%）であった（**表 3**）。また，貼るときやはがすときに気をつけていることは，「貼る場所を変える」71 例（69%）や「ゆっくりはがす」61 例（59%）が多かった（**表 4**）。

アリドネ®パッチの良い点や悪い点を自由記載してもらった結果，良い点として「使い勝手が良い」

表 3　日常生活の中でアリドネ®パッチをはがしてしまう割合

	人　数	割　合
よくある	7	7%
時々ある	23	22%
あまりない	28	27%
全くない	44	43%
未 回 答	1	1%
合　　計	103	100%

表 4　アリドネ®パッチを貼るとき，はがすときに気をつけていること（複数回答）

	回答件数人数	回答件数割合
やさしく貼る	21	20%
ゆっくりはがす	61	59%
貼る場所を変える	71	69%
保湿する	30	29%
そ の 他	4	4%
患 者 数	103	

ことを挙げたのが 10 例と多く，「飲み薬と比較して忘れることが少ない」が 4 例，「一定の効果が感じられた」が 4 例，「家族が管理しやすい」が 3 例であった。一方，悪い点は「貼りづらい」が 17 例であり，ほかに「気づかないうちにはがれる」「べたつく」などが挙げられた。また，「皮膚症状」が 11 例であり，「かゆみ」が 5 例と最も多かった。その他，「赤くなる」「肌荒れ」が挙げられた。

2. 飲み薬と貼付剤の比較

アリドネ®パッチに限らず貼付剤の必要性について質問したところ，「貼り薬があるほうが良い」との回答が 54 例（52%）であり，「すべて飲み薬が良い」の 19 例（18%）より多かった（**表 5**）。飲み薬に比べて貼り薬の利便性は，「服薬を忘れることが少ない」が 36 例（35%），「飲むより貼るほうが簡単」が 31 例（30%）と多かった（**表 6**）。その他には，「副作用が少ない」「飲み薬より効果がある気がする」「飲み薬を減らせる」「使用の確認がしやすい」が挙げられた。貼り薬の欠点としては，「かぶれる」が 33 例（32%）で最も多く，気になる（はがしたくなる）が 21 例（20%）と続いた（**表 7**）。その他には，「貼るのが手間と感じる」「肌のケアが必要」「折れ曲がって衣服につき，べたつきが落ちない」などが挙げられた。

表 5　すべて飲み薬の場合と貼り薬のある治療法の患者希望

	人　数	割　合
貼り薬があるほうが良い	54	52%
すべて飲み薬が良い	19	18%
どちらでも良い	28	27%
未 回 答	2	2%
合　　計	103	100%

表 6　飲み薬と比較して貼り薬の利点（複数回答）

	回答件数人数	回答件数割合
服薬を忘れることが少ない	36	35%
水を飲まなくて良い	21	20%
飲むより貼るほうが簡単	31	30%
何かあったときにはがせる	17	17%
そ の 他	10	10%
患 者 数	103	

表 7　飲み薬と比較して貼り薬の欠点（複数回答）

	回答件数人数	回答件数割合
貼るのが難しい	10	10%
かぶれる	33	32%
気になる（はがしたくなる）	21	20%
はがすときに痛い	11	11%
そ の 他	20	19%
未 回 答	28	27%
患 者 数	103	

Ⅱ　患者と家族・介護者の比較

貼付剤に対する印象は，患者（34 例）と家族・介護者（69 例）で異なる可能性があるため，両者の意見を比較した。

1. アリドネ®パッチについて

アリドネ®パッチの大きさは，「ちょうど良い」と回答した患者が 25 例（74%）と多く，家族・介護者は 40 例（58%）であった。また，「大きすぎる」と回答した患者が 0 例だったのに対し，家族・介護者は 14 例（20%）であった（**図 2**）。貼り心地は，患者 17 例（50%）が「良い」と回答したが，家族・介護者は「まあまあ良い」が 42 例（61%）と多かった（**図 3**）。日常生活でアリドネ®パッチをはがしてしまう頻度は，「全くない」と回答した患者が 17 例（50%），家族・介護者は 27 例（39%）で

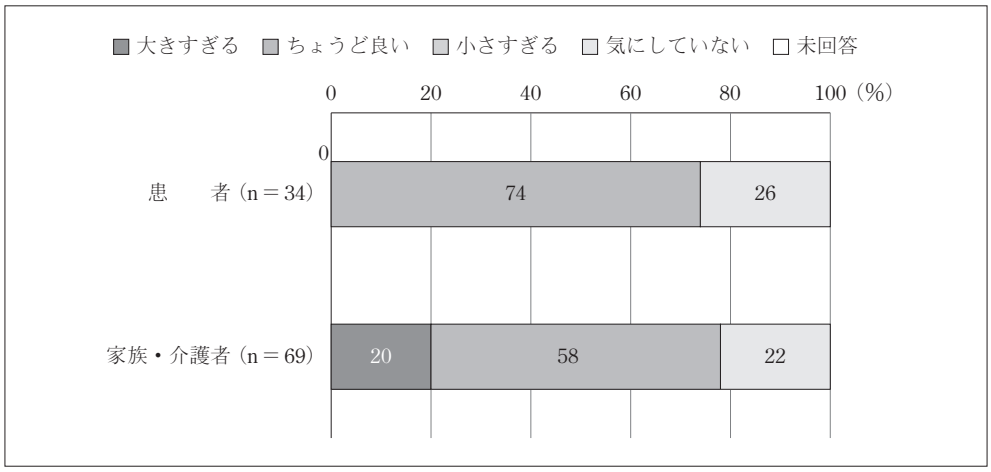

図 2　アリドネ®パッチの大きさ（患者と家族・介護者との比較）

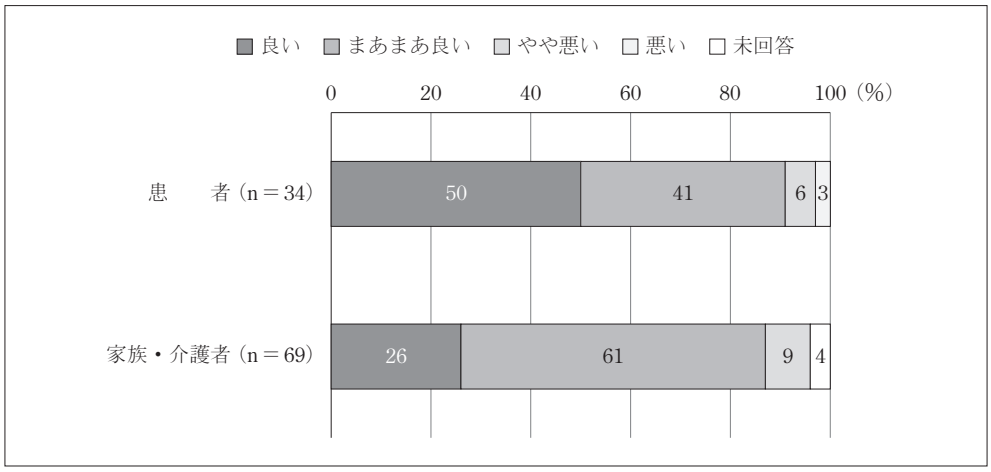

図 3　アリドネ®パッチの貼り心地（患者と家族・介護者との比較）

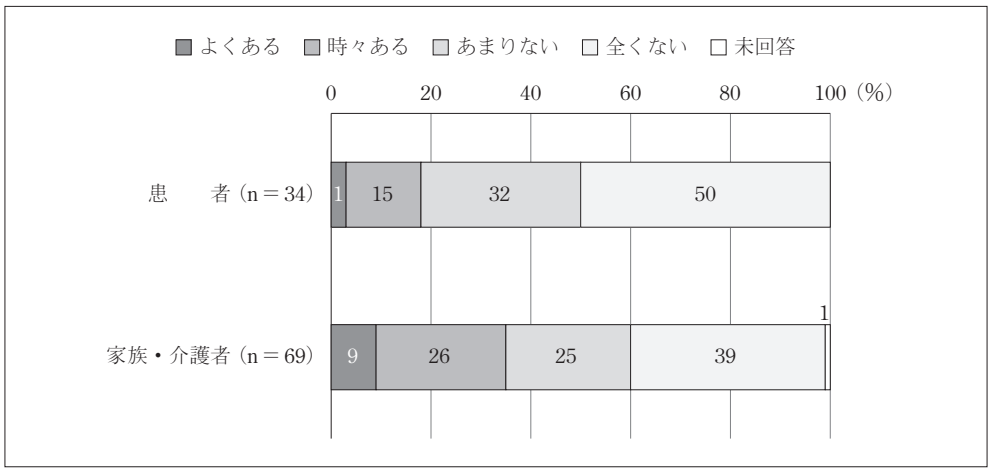

図 4　日常生活の中でアリドネ®パッチをはがしてしまう割合（患者と家族・介護者との比較）

あった。また，「あまりない」と回答した患者は 11 例（32%）であったのに対して，家族・介護者は 18 例（26%）が「時々ある」と回答した（**図 4**）。

貼るときやはがすときに気をつけていることは，患者は「ゆっくりはがす」が 24 例（71%）で多かったが，家族・介護者は「貼る場所を変える」が 52

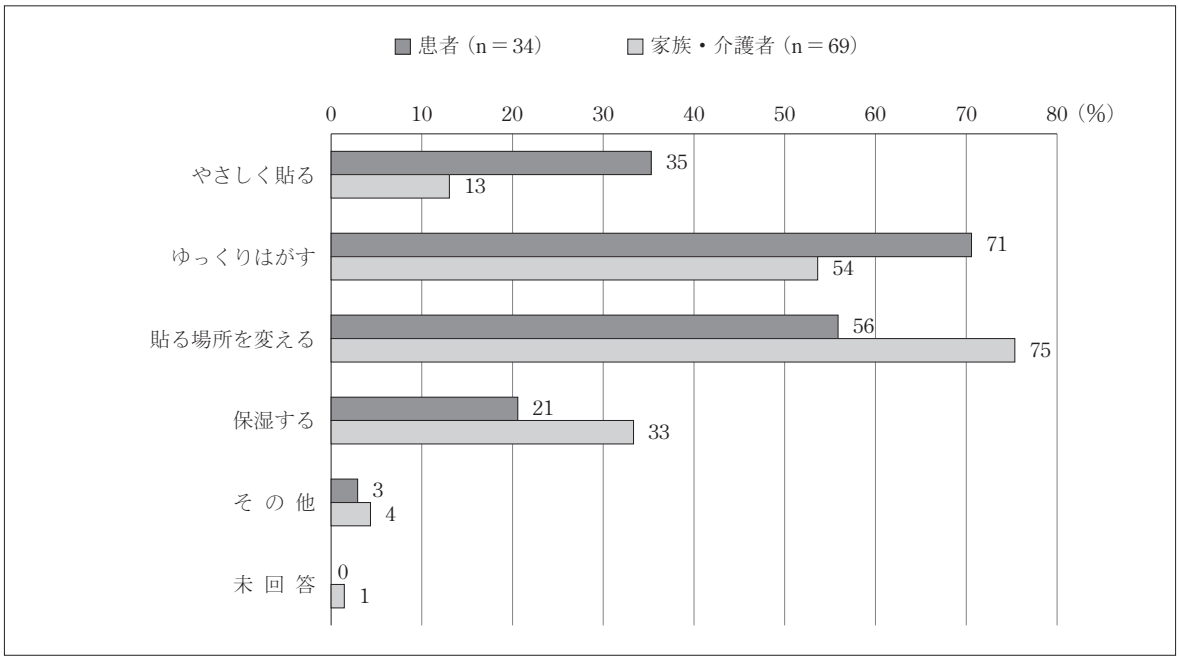

図 5　アリドネ®パッチを貼るとき，はがすときに気をつけていること（患者と家族・介護者との比較）（複数回答）

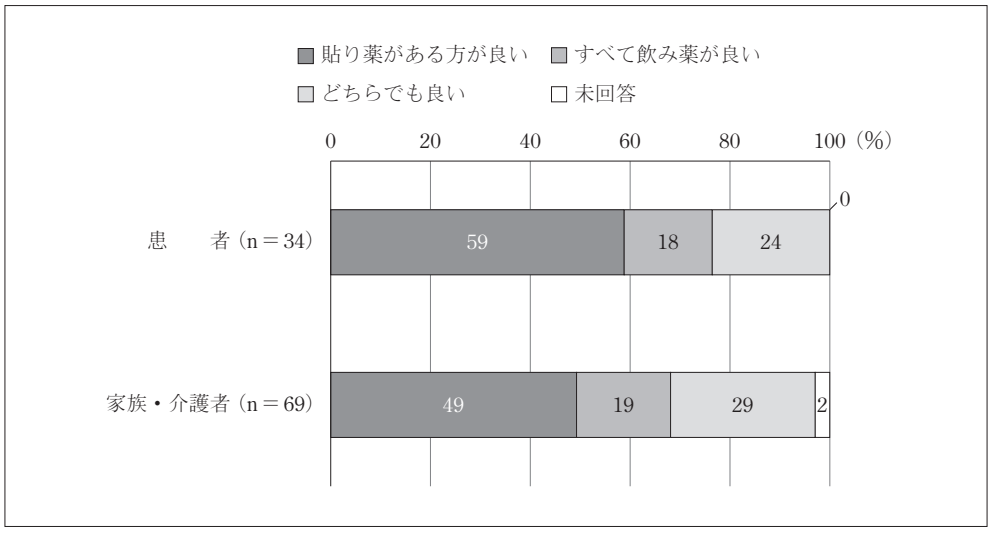

図 6　すべて飲み薬の場合と貼り薬のある治療法の患者希望（患者と家族・介護者との比較）

例（75%）で多かった（**図 5**）。

2. 飲み薬と貼付剤の比較

アリドネ®パッチに限らず貼付剤について質問したところ，いずれも「貼り薬があるほうが良い」との回答が多く，患者が 20 例（59%），家族・介護者は 34 例（49%）であった（**図 6**）。貼り薬の利便性は，患者は「飲むより貼るほうが簡単」が 18 例（53%）と多かったが，家族・介護者は「服薬を忘れることが少ない」のほうが 27 例（39%）と多かった（**図 7**）。飲み薬に比べて貼り薬の欠点は，「かぶれる」との回答が多く，患者は 8 例（24%），家族・介護者は 25 例（36%）であった（**図 8**）。

4. 考　　察

本研究はアリドネ®パッチを使用する患者およびその家族・介護者を対象に，使用感や使い易さ，経皮型吸収製剤全般に関する嗜好・ニーズを調査した。アリドネ®パッチの大きさは「ちょうど良い」，「気にしていない」で 80%を超えており，それほど気になっていないことがわかった。また，貼り心地

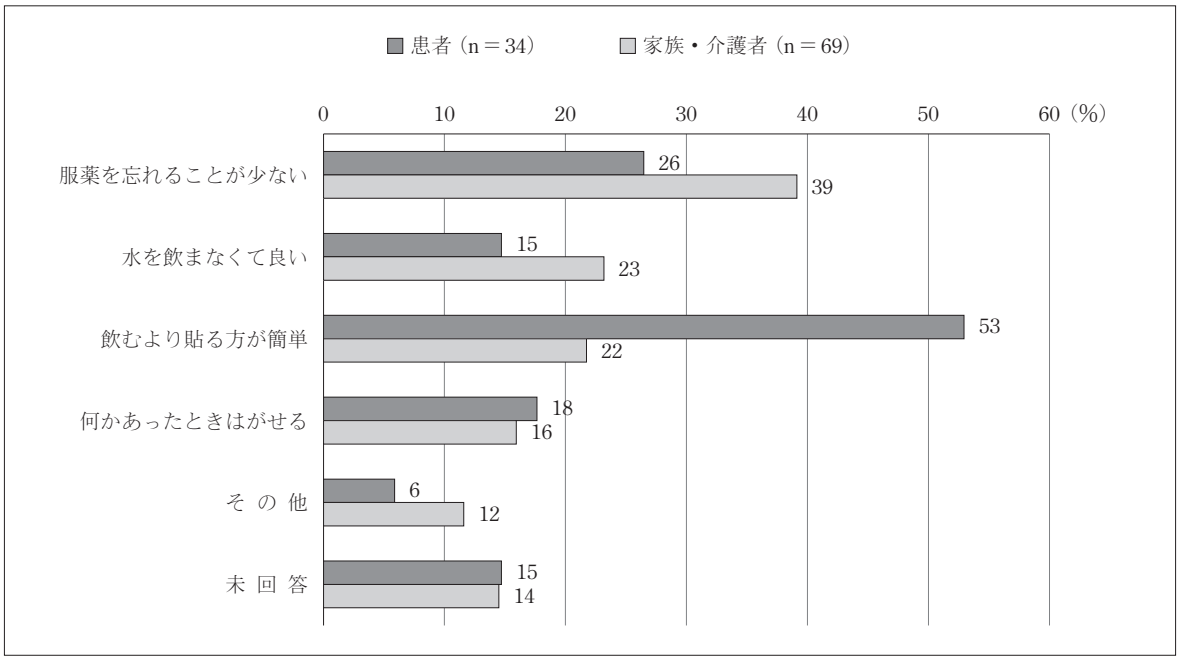

図 7　飲み薬と比較して貼り薬の利点（患者と家族・介護者との比較）（複数回答）

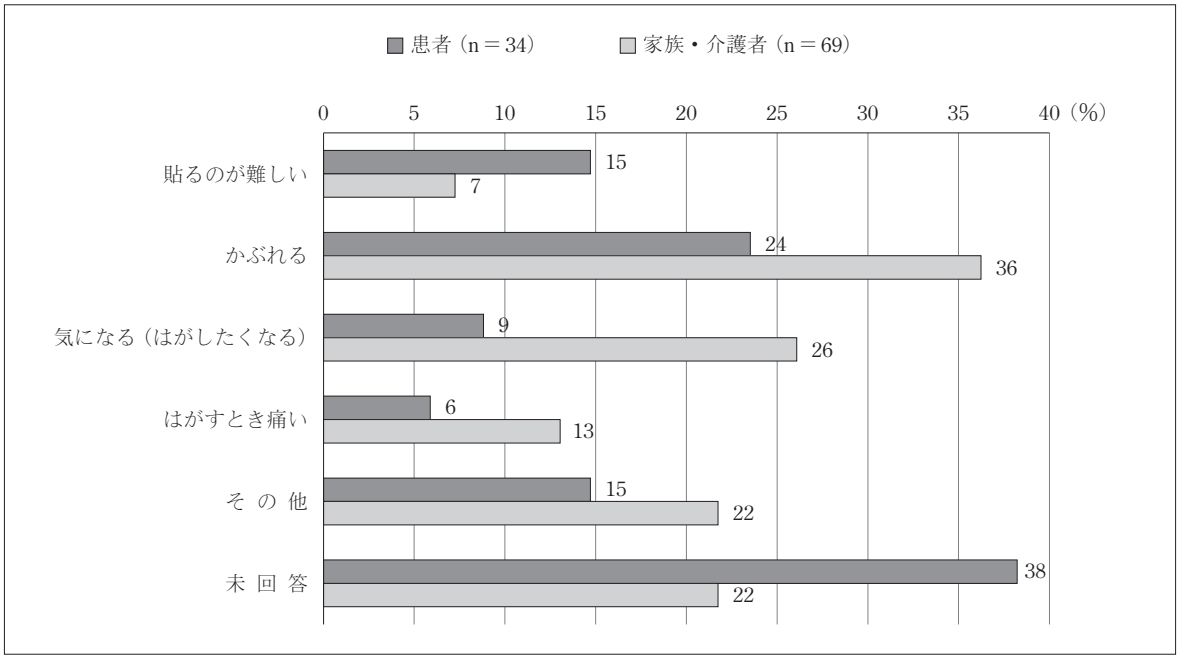

図 8　飲み薬と比較して貼り薬の欠点（患者と家族・介護者との比較）（複数回答）

についても「良い」，「まあまあ良い」で 80％を超え，アリドネ®パッチの使用に関して満足度が高いことがわかった。一方で，アリドネ®パッチをはがしてしまう患者も一定数おり，皮膚トラブル（かゆみ，赤み）や上手く貼れないといった欠点も挙げられた。これらの結果は，ケアマネジャーや訪問看護師を対象とした，認知症の人への貼付剤に関する認識調査からも同様な結果が得られている[9)10)]。

全体の集計結果として，アリドネ®パッチを含む貼付剤治療について，「貼り薬があるほうが良い」（52％）が「すべて飲み薬が良い」（18％）を大きく上回り，貼付剤という剤形への一定のニーズが確認されたことは大きなポイントであった。これは 1,059 例の介護者がリバスチグミンパッチをカプセルより選好した報告[5)]と同様であり，認知症患者特有の嚥下機能低下や服薬忘れといった課題に対し

て，貼付剤の有用性が評価された結果と推察される。特に，飲み薬と比較した貼付剤の利点として，「服薬を忘れることが少ない」（35%），「飲むより貼るほうが簡単」（30%）が上位を占めた。これは，薬剤の視認性による服薬管理の容易さ（家族・介護者）と内服行為自体の負担軽減（患者）という，貼付剤の二重の利点を示している。

一方，最大の欠点として「かぶれる」（32%）が挙げられ，次いで「気になる（はがしたくなる）」（20%）であった。これは貼付剤に共通する課題であり，アリドネ®パッチの使用においても皮膚症状の管理が重要であることが改めて示された。実際，貼付時に気をつけていることとして「貼る場所を変える」（69%），「ゆっくりはがす」（59%）が具体的対策として挙げられており，これらが服薬指導において重要なポイントであることが裏付けられた。

本研究の最も重要な知見は，「Ⅱ 患者と家族・介護者の比較」で明らかになった両者の認識のギャップである。第一に，製剤の物理的評価について，患者の 74%がアリドネ®パッチの大きさを「ちょうど良い」と回答したのに対して，家族・介護者では「大きすぎる」との回答が 20%存在した（患者は 0%）。また，貼り心地についても，患者は「良い」（50%）と好意的に評価しているが，家族・介護者は「まあまあ良い」（61%）という評価が最多であり，はがしてしまう割合についても，患者は「全くない」が半数を占めた。大きさ，貼り心地，はがしてしまう割合については，患者より家族・介護者が気になっていることが多く，患者はあまり気になっていないため，患者は貼付剤を好んでいると考えられる。第二に，皮膚症状と管理について，飲み薬に比べた貼付剤の欠点として「かぶれる」と回答した割合は，患者（24%）よりも家族・介護者（36%）の方が高かった。家族・介護者は「かぶれ」を気にしているが，患者は「かぶれ」を気にしてないように考えられるため，かゆみを伴わずに皮膚が赤いだけの場合も多いのかもしれない。また，貼付時に気をつけていることとして，家族・介護者が「貼る場所を変える」（75%）を最も多く挙げた（患者は「ゆっくりはがす」が 71%）。つまり，患者は貼り心地に満足していても，介護者は日常的に貼付部位の皮膚状態を観察・管理する中で皮膚トラブルをより敏感に認識し，その管理（ローテーション）に負担を感じている可能性が示唆される。第三に，利便性の評価ポイントの違いである。貼付剤の利便性として，患者は「飲むより貼るほうが簡単」（53%）という『行為の容易さ』を最も評価したのに対し，家族・介護者は「服薬を忘れることが少ない」（39%）という『管理の容易さ（視認性）』を最も評価している。これは，同じ貼付剤という剤形であっても，使用者（患者）と管理者（家族・介護者）では，そのベネフィットを感じる側面が異なることを明確に示している。患者の貼付剤に対する満足度の高さは，家族・介護者のサポートが貢献していることが考えられる。また，貼ることにより家族・介護者からのスキンシップが増えることも寄与しているかもしれない。

これらの結果は，経皮吸収型製剤が投与状況の視認性に優れ，在宅医療等の場面においても介護者を含めた服薬アドヒアランスの改善に寄与すると考えられる。そのため，在宅を含むかかりつけ機能全般を持つ地域密着型の薬局には，薬剤師による服薬期間中のフォローアップが重要であることを示唆する。特に認知症治療においては，患者の感覚（貼り心地，簡便さ）と，家族・介護者の感覚（皮膚トラブルの懸念，管理の容易さ，はがれのリスク）が必ずしも一致しない。薬剤師は，患者と介護者の両方から個別に意見を聴取し，認識のギャップを埋める必要がある。例えば，患者には皮膚刺激を抑えるための「ゆっくりとしたはがし方」を，家族・介護者には「貼付部位のローテーションの具体的な方法」や「貼りづらさ」への対策（例：背部以外への貼付）を個別に指導・フィードバックすることが，アドヒアランスの維持・向上に不可欠である。

本研究の限界として，すでにアリドネ®パッチを調剤・交付されている患者やその家族・介護者を対象としている点，調査対象が特定の薬局チェーンの利用者に限られている点，アンケートの回収数が 103 例と比較的少数である点，患者の認知機能の重症度を調査していない点が挙げられ，調査対象にバイアスが存在する。また，本調査結果はアリドネ®パッチを使用中の患者，家族・介護者への使用感や評価の収集であり，これらの回答が認知機能の効果と関係しているかわからない。しかし，アリドネ®パッチについて，患者と家族・介護者の双方から具体的な使用感や評価を収集し，両者の認識ギャップ

を明らかにした点は，今後の臨床現場における服薬指導，特に在宅医療や地域薬局における薬剤師の介入において，有益な知見となると考える。

著者の COI 開示：本研究は，興和㈱の資金により日本調剤㈱の店舗で実施した。㈱日本医薬総合研究所は，興和㈱の依頼を受け，アンケートの作成，データ収集，結果の集計を行った。医学専門家の清水聰一郎は本研究を監修し，その対価として指導料を興和㈱から受領した。

文　　献

1）Ritchie CW, Ames D, Clayton T, Lai R: Metaanalysis of randomized trials of the efficacy and safety of donepezil, galantamine, and rivastigmine for the treatment of Alzheimer disease. Am J Geriatr Psychiatry. 2004; **12**: 358-369.

2）Feldman H, Gauthier S, Hecker J, Vellas B, Subbiah P, Whalen E: A 24-week, randomized, double-blind study of donepezil in moderate to severe Alzheimer's disease. Neurology. 2001; **57**: 613-620.

3）Homma A, Takeda M, Imai Y, Udaka F, Hasegawa K, Kameyama M, Nishimura T: Clinical efficacy and safety of donepezil on cognitive and global function in patients with Alzheimer's disease. A 24-week, multicenter, double-blind, placebo-controlled study in Japan. E2020 Study Group. Dement Geriatr Cogn Disord. 2000; **11**: 299-313.

4）池田志李，柏田紘輝，金　麗，西山賢一，青木　寛，石川一朗，中村　祐：日本人健康高齢男性におけるアルツハイマー型認知症治療薬ドネペジルテープ剤反復投与の安全性および薬物動態．薬理と治療．2022；**50**：1787-1799.

5）Nakamura Y, Kim R, Nishiyama K, Kikuchi T, Ishikawa I, Aoki H : Efficacy and safety of a transdermal donepezil patch in patients with mild-to-moderate Alzheimer's disease: A 24-week, randomized, multicenter, double-blind, parallel group, non-inferiority study. Geriatr Gerontol Int. 2023；**23**：275-281.

6）原田薫雄，石井滋之，神原　浩：アルツハイマー型認知症患者に対するアリドネ®パッチ投与の臨床的検討．診療と新薬．2024；**61**：529-536.

7）石崎賢一，氏井江理子：アルツハイマー型認知症におけるドネペジル経皮吸収型製剤（アリドネ®パッチ）の有効性と安全性―後ろ向き観察研究―．薬理と治療．2025；**53**：125-136.

8）吉元和浩：アルツハイマー型認知症患者に対するアリドネ®パッチの使用経験：認知機能と食欲に対する影響について．診療と新薬．2025；**62**：701-705.

9）平野成樹，田中留奈，田嶋祥子：認知症の人への貼付剤に関するケアマネジャーの認識調査．薬理と治療．2024；52（2）：139-53.

10）田中瑠奈，田嶋祥子，藤城弘樹：認知症の人への貼付剤に関する訪問看護師の認識調査．薬理と治療．2024；**52**：1141-1157.

11）Winblad B, Kawata AK, Beusterien KM, Thomas SK, Wimo A, Lane R, Fillit H, Blesa R: Caregiver preference for rivastigmine patch relative to capsules for treatment of probable Alzheimer's disease. Int J Geriatr Psychiatry. 2007; **22**: 485-491.